

委員会視察報告書

委員会名	議会運営委員会・予算決算常任委員会
視察地	神奈川県茅ヶ崎市
調査項目	1 決算審査における事業評価について 2 政策討議について 3 議会改革の取組について
調査目的	茅ヶ崎市議会が取り組む決算事業評価の手法や効果等を調査し、本市議会における決算審査や施策・事務事業評価の参考とすること。また、議会改革度ランキング上位の茅ヶ崎市議会における議会改革の先進的な取組について、その手法や効果等を調査し、本市議会における今後の議会改革の取組の参考とすることを目的に視察を行った。
日時	令和4（2022）年8月4日（木）午前9時～11時
場所	茅ヶ崎市役所
調査概要	<p>1 決算審査における事業評価について</p> <p>茅ヶ崎市議会では、議会が議決した予算の執行について、計数的審査、執行状況の審査等にとどまらず、各事業の成果も審査することにより、決算審査をより充実させる目的で決算事業評価に取り組み、審査結果を翌年度予算審査に反映させている。</p> <p>【導入の経緯】</p> <p>平成19年11月から平成21年5月までの期間で議会制度検討会という組織を立ち上げ、事業評価を実施する方向で検討開始し、平成21年に行った決算審査から試行的に事務評価を実施した。</p> <p>【決算審査・事業評価の主な変更点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年実施 <ul style="list-style-type: none"> ① 一般会計から特別会計全体へ変更 ② 審査日数を4日間から6日間へ変更 ③ 評価段階を5段階から7段階へ変更 ・平成24年度実施 <ul style="list-style-type: none"> ① 常任委員会を活用した分科会審査へ変更 ② 審査日数を6日間から8日間へ変更

	<ul style="list-style-type: none">・平成27年度実施 評価区分を7段階から4段階に変更・平成29年度実施 評価対象事業数を分科会ごとに5事業から3事業に変更 ※令和2年度からコロナ禍の影響により決算事業評価は 休止 <p>2 政策討議について</p> <p>茅ヶ崎市議会では、平成23年度より議会基本条例に政策討議を規定して、議会は市政に関する重要な政策又は課題について、議会としての共通認識の醸成を図るため、討議の機会を設けるものとした。</p> <p>【導入の経緯】</p> <p>平成23年度に条例を制定し、平成26年度より議会制度検討会という組織の中で取組を開始した。</p> <p>【政策討議の進め方】</p> <ol style="list-style-type: none">① 各常任委員会で所管分野のテーマを選定し、調査研究を行う。② 各常任委員会が政策提言（素案）を作成する。③ 全員協議会で協議し、議会としての政策提言書を作成する。④ 議長から市長に提言を行う。 ※総務常任委員会からの提言が反映された事例がある。 <p>3 議会改革の取組について</p> <p>茅ヶ崎市議会では、より開かれた議会を目指すという観点により、様々な機械改革に取り組んでいる。</p> <p>【主な事例】</p> <ol style="list-style-type: none">① 本会議、委員会のインターネット生中継のほか、会議当日のうちに速報版の録画中継も視聴できるようにした。② 傍聴受付票を廃止し、傍聴者の氏名・住所の記載を不要とした。③ 規則を改正し、全員協議会を公式の会議として位置付けた。④ 議会活動について市民に説明等を行うための議会報告会を開催する。⑤ 市民の意見を議会活動に反映するため、意見交換会を開催する。
--	--

- ⑥ 議案書、議案資料をホームページに記載することとした。
- ⑦ 議案の迅速かつ充実した審査を図る目的として、一般質問日と議案審査日の順序を入れ替えた。
- ⑧ 陳情の取扱いの透明性を高めること等を目的として、基準を定めた。
- ⑨ 一般質問における質問内容（通告）が重複した場合は、議員間で調整を行い、重複を避けるよう努めるとともに、一般質問の通告書を他の議員が閲覧できることとした。

視察の様子



<p>質 疑 応 答</p>	<p>(1) 決算審査における事業評価について</p> <p>質問 決算審査におけるスケジュール、評価方法、項目について</p> <p>回答 評価対象事業は各分科会で、3事業を標準とし、4つの区分で評価を行う。また、審査日数を8日間へ延長した。</p> <p>質問 事業評価シートの様式及び分科会員以外の意見集約の方法について</p> <p>回答 評価は分科会で行うが、分科会員以外は全体会で意見を述べるができる。</p> <p>質問 原価や内部評価の公表について</p> <p>回答 財政部門の確認後、8月中旬に議会へ公表している。</p> <p>質問 コロナ禍の影響による決算事業評価休止について</p> <p>回答 コロナ禍により令和2年度より休止しているが、市民からの反響はない。</p> <p>(2) 政策討議について</p> <p>質問 政策討議の進め方や実績、効果について</p> <p>回答 平成26年から取組を開始し、これまでの実績は5回である。現在は議会基本条例の検証中である。</p> <p>質問 市政への反映状況、総合計画への提言について</p> <p>回答 各常任委員会でテーマを決め、委員会案を議長に提出し、議会の提言書に昇華させ、議長から市長へ提出する。過去には行政組織改正等に反映された事例がある。</p> <p>(3) 議会改革の取組について</p> <p>質問 一般質問と議案審査の日程入替えによる効果について</p> <p>回答 議案審査を先に行うことにより、一般質問での混乱がなくなり、スピーディーになったが、追加議案に課題がある。</p> <p>質問 陳情取扱い変更による変化について</p> <p>回答 国や県に対する陳情は配付のみにするなど、基準を設けて透明化したため、減少している。</p> <p>質問 議会改革の市民理解及び評価について</p> <p>回答 ホームページや議会だより、SNSを活用して広報している。また、傍聴者からアンケートを実施している。</p>
<p>委員会所感 (50音順)</p>	<p>【秋間委員】</p> <p>(1) 決算審査における事業評価について コロナ禍において事業評価を休止しているとは思わなかったが、中長期的な検討課題に、決算審査を常任委員会単位で実施し、決算事業評価を廃止する意見が出ているのは思</p>

い切った取組と感じた。

(2) 政策討議について

平成26(2014)年から実施している政策提言はよい取組と考えるが、議長の諮問委員会の中での検討する組織となっている。各会派からの代表者によって実施できれば、柏崎市でも検討してもいいのではないかと考える。

その中で頂いた政策討議-資料2の総務常任委員会提出の提言は、行政運営を社会の仕組みに対応するため職員の在り方を提言とした全11ページは興味深く拝見させていただいた。

(3) 議会改革の取組について

主な取組を見たが、柏崎市とさほど変わらないのではないかと感じた。

【阿部委員】

事業評価においては、常に検討、見直しを行うなど、改善を進めるとともに、2年のタイムラグはあるものの、予算編成への反映状況の報告を求めていることや、各常任委員会において年間のテーマを慎重に調査、研究し、提言に結びつけるなど、PDCAサイクルを重視している点などを学ぶことができました。

今後、柏崎市バージョンとして、いかに提言、予算、決算をPDCAサイクルにできるかを研究し、議会改革に取り組みます。

【笠原委員】

決算審査における議会からの評価を受け、当局は決算審査における事業評価結果の次年度予算編成等への反映状況を作成している。議会としても事業評価が確認しやすく、意味のあるものになっていると感じた。

政策討議について、議会として積極的に行っている。任期ごとにテーマを持って提言につなげており、議会のやる気を感じた。議会による政策立案や政策提言は簡単なものではないが、各委員会が取り上げたものを形にしていく段階の調査研究が、議員個人の資質も上げていくのではないかと。柏崎市議会としても積極的に進めるべきと考える。

【佐藤和典議会運営委員長】

決算事業評価は、2年の検討期間を経て平成21年から事業評価に取り組んでいる。評価区分については、5段階から7段階に変更し、現状では4段階にしている。やはり評価の

やり方が議員間でしっくりきていないことが見てとれる。柏崎市議会でもここ3、4年、評価のところでどうしたら議員間の意思疎通ができるのか議論しているが、今後の方向性を見極めるうえで大変参考になった。また、決算審査における事業評価結果に対して、次期の予算編成に対し、市はどういった予算や事業を展開したのか、議会に対して示している。当局との意思疎通のやり方も参考となる。

今年新たに柏崎市議会として取り組んでいる「政策提言」については、参考となる取組と考える。しかし、茅ヶ崎市議会の政策提言書の出来上がり具合を見ると、柏崎市議会がイメージしている文章量と格段に違い、充実している。柏崎市議会としては、委員会での討議も含め、スケジュールを大きく変える必要があると考える。

【佐藤正典委員】

視察の本題のテーマの前に、茅ヶ崎の市勢について特筆すべき事は、今の人口減少社会にあって、いまだ人口が増加している点にある。全国で19位の転入の超過率とのこと。街全体が活気にあふれていると感じたのは私だけではないはずだ。

決算審査における事業評価の取組については、平成19年から21年にかけて、約1年半の時間を費やして導入しており、評価のサイクルがしっかりとしたものになっていると感じた。議会による評価の後、当局（市長）への評価結果通知、その後の予算編成への反映という流れは、議会による行政実績の評価を、より意味のあるものにしていく。ただし、コロナ禍の影響により、現在、決算事業評価を休止していることは、残念な点であった。

政策討議については大変先進的であり、議会側としても積極的な取組を行っていると感じた。成果品としての、議会側からの政策提言が、茅ヶ崎市の総合計画にも反映されていく仕組みであることも、この取組の価値は高いと感じた。議会は行政当局を質するという本来の役割に加えて、政策提言を積極的に行うことが今後求められるのではないかと。

【重野委員】

政策検討会議の活動及び政策討議キックオフからの流れ、さらにまとめあげた政策提言書は、現在柏崎市議会で行っている各常任委員会で設定したテーマの取組に大変参考になった。柏崎市では予算審査、決算審査及び事務事業評価におい

てもこのテーマに即した視点で審査を行っていたり、会派や常任委員会に所属していない議員の意見をそれぞれの審査の一部に取り入れていることについては、常任委員会の取組に一貫性があったり、より広い意見を集約する点については優れているように感じる。また、決算審査における事業評価結果の次年度への反映についても、当局のコメントだけでなく、予算額など明確な回答を得ているところは参考にできる。

【白川委員】

決算審査における事業評価のブラッシュアップのプロセスに着目した。決算事業評価の【意義】として「①議会が議決した予算の執行について、計数的審査、執行状況の審査にとどまらず、『各事業の【成果】』も審査することにより、決算審査をより充実させる、②審査結果を『翌年度予算審査に【反映】』させる』という2点を共有して審査に臨むことの重要性を実感した。事業評価の流れの変遷においては、「議会制度検討会」の存在とそのメンバーにカギとなる人の存在が大きかったとお聞きし、どんな改革も意志あるけん引役の情熱なくして成り立たないと改めて気づかされた。また「決算審査を事業ごとに行っているため、複数課にかかる部局横断的な事業等を評価できない」という課題は、柏崎市においても共通であり、今後の検討を要するテーマと捉え、在り方を模索したい。

【田邊委員】

各地で人口減少に歯止めがかからない中で人口が増加しており、全国で19位の転入超過と聞き驚いた。

事業評価の取組については、平成21年の決算時期から行われているわけだが、導入時期の検討会から約一年半をかけ検討されただけあって、PDCAサイクルがしっかりと回されているという印象を受けた。

2021年4月よりシティプロモーション担当を設置し推進したり、情報の発信の仕方はフェイスブックやインスタグラムなどのSNSを活用し、発信したりしている。情報発信の仕方などがうまくいっていることも人口増に一役買っているのではないかと考える。

【布施委員】

最初に茅ヶ崎市役所職員の服装がクールビズを通り越してアロハシャツだったことに驚きました。服装にかかる経費もハイブランドにこだわらなければ非常に安く済み、職員さん

も助かるし、楽しうらやましく思いました。

議会における政策提言は要望や陳情ではなく市長への提言となるもので、当市も参考として見習うべきものがありました。市長要望ではなく市長への政策提言は、議員自らが勉強して議会として調査研究する必要があるため大変ですが議員として市民の負託を得ている以上、やはり当市としても参考にすべきと思いました。

また、職員を分野横断的に派遣できるシステムも従来のお役所的な組織機構の概念を覆すような組織システムとなり当市も参考とする点が多くあり、非常に有益な視察でありました。

【星野正仁予算決算常任委員長】

茅ヶ崎市議会では、事業評価などについて視察しました。

柏崎市議会では、昨年より予算決算常任委員会化されましたが、改善や見直しの点が多くあります。そのような中で茅ヶ崎市議会での先進的に取り組まれている事業評価（平成19年検討、平成21年試行）・政策討議（平成26年開始）・議会改革の取組について話を聞きました。事業評価では、長年取り組まれ改善等も行われ、現在に至っています。一つ一つの説明が実践からの改善等の話でとても参考になりました。政策討議も柏崎市議会では課題の一つで今回の説明を参考に今後の委員会の活動に活かしていきたいと思えます。最後に職員のクールビズのアロハシャツは暑い夏には涼しい印象と海の茅ヶ崎と合わさってとても良かったです。柏崎市も海の観光を全面に出しているのを検討してはと思いました。

【村田委員】

最初に茅ヶ崎市役所職員の服装がクールビズを通り越してアロハシャツだったことに驚きました。服装にかかる経費もハイブランドにこだわらなければ非常に安く済み、職員さんも助かるし、楽しうらやましく思いました。

議会における政策提言は要望や陳情ではなく市長への提言となるもので、当市も参考として見習うべきものがありました。市長要望ではなく市長への政策提言は、議員自らが勉強して議会として調査研究する必要があるため大変ですが議員として市民の負託を得ている以上、やはり当市としても参考にすべきと思いました。

また、職員を分野横断的に派遣できるシステムも従来のお役所的な組織機構の概念を覆すような組織システムとなり

おり当市も参考とする点が多数あり、非常に有益な視察でありました。

【持田予算決算常任副委員長】

議会における事業評価については、平成20年から検討を始め、スタートさせている先進的で優れた議会・議員の姿勢を学ぶことができた。議会の決算審査とは、本来、予算審査以上に綿密に、資料請求を行うことを通じて審査することが基本である。さらに事業評価を通じて、議会のチェック機能をより高め、議会としての政策サイクルへ展開させるという理にかなった議会運営となっていること。

【山本委員】

茅ヶ崎市役所に伺い、最初に目についたのが、職員全員が色とりどりのアロハシャツを着ているのにびっくりした。茅ヶ崎市では「クールビズ」ならぬ「アロハビズ」とのこと。

今回茅ヶ崎市議会の3つの視察目的の中で、(1)の決算事業評価については柏崎市議会でもやっているが同じ課題を抱えていると感じた。それは決算審査の一環として事業費ごとに行っているため、複数課にまたがる部局横断的な事業等は評価ができない課題を共有した。

また、(2)の政策討議については政策討議テーマを決めて約2年間調査研究を行い、最終的には政策提言書として市長に提出する取組を伺い、柏崎市議会も現在取り組んでいる最中なので参考になった。

今回茅ヶ崎市議会の取組で学んだことを柏崎市議会でも活用できればと考える。

【若井委員】

茅ヶ崎市は転入者が転出者を上回る転入超過数のうち、子育て世代が6割以上を占めている自治体の中で全国1位となったほか、東京23区からの転入者の増加率も全国1位となっており大変うらやましい自治体である。平成21年から事業評価に取り組んでおり、評価段階を細かな5段階から7段階に設定したのち、現状では4段階にしているが、その評価区分は大変分かりやすい。また、項目別の評価も必要性、妥当性、継続性、効率性など分かりやすい評価であり、参考になるのではないかと思う。また特筆すべきは、決算審査における事業評価結果に対して市として次期の予算編成にどのように予算化、事業展開したのか、議会に対して示している。当市議会においても当局に求めていくべきだと考える。

